

第2回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成22年1月28日(木) 15:30～17:40

場所：小野高校 蜻蛉会館 出席者：別紙のとおり

開 会

(1) 高校生による粟生線活性化の提案

- ・ 小野高校生による課題研究「地方の足を守れ」の発表があり、情報発信拠点となる協力店舗（フレンドショップ）やイメージキャラクターの活用、鉄道とフューダーバスの連携、車内環境の改善（ハーブの香りや音楽など）、社会貢献活動による地域との交流促進などの提案があった。
- ・ 事務局より、小野高校生と小野東小学校生の協力によりデザインされた犬と電車のキャラクターを、粟生線活性化のシンボルマークとして活用するとともに、キャラクターの愛称を公募するとの報告があった。

(2) 第1回協議会議事録の確認

- ・ 第1回協議会の議事概要について、議事録の確認がなされた。

(3) 報告事項

- ・ 以下の事項について、事務局および近畿運輸局から報告があった。
 - ①鉄道軌道輸送対策事業費補助金（仮称）の概要（近畿運輸局から説明）
 - ②協議会ホームページの開設
 - ③「連携計画策定調査」実施計画の認定および補助金の交付決定
 - ④協議会スケジュールの一部変更
 - ⑤アンケートの実施状況

(4) 第1回協議会における意見に関する事項等の説明

- ・ 事務局より、前回指摘のあった、沿線の人口推移や旅客流動の状況、企画きっぷの発売状況、粟生線の費用・線路構造の特徴等について報告があった。
- 座長より委員に意見を求めたところ、以下の意見が出された。
 - ・ 昼間の空いている時間帯で運賃を安くすれば利用者増が図れるのではないか（例えば、三木市域や小野市域内での移動は100円にするとか、新開地や三宮まで1コインの500円にするなど）。
 - ・ 地域外から地域内への移動では鉄道利用が非常に少ないので、今後の利用促進を図るうえで、地域外へのPRを考える必要があるのではないか。

(5) 神戸電鉄からのお願い

- ・ 神戸電鉄・三津澤委員より、粟生線では厳しい状況が続いており、このままでは、ご利用実態に合わせたダイヤや駅諸設備の見直しのほか、運賃改定等も検討せねばならなくなる可能性もあるため、事業者として一層の利用促進に努めるとともに、皆様にも一層のご利用をお願いしたいとの報告があった。
- ・ 委員より、神戸電鉄の課題は運賃とスピードだが、沿線の景観を活かすという点で、遊びの場を設けて集客を図るとか（例えば、閉鎖中の菊水山駅で足湯ができるとか）、子供に人気のあるキャラクターを活用して親の利用を呼び込むといったことも考えてはどうかとの意見が出された。

(6) 議 事

● 議案 1 号「神戸電鉄粟生線 地域公共交通総合連携計画（案）」について

○ 議案 1 号について事務局より以下の報告があった。

- ・ 連携計画の策定にあたり、広く沿線住民のご意見を伺うパブリック・コメントを実施するが、そこで提示する計画案のご議論をいただきたい。
- ・ 粟生線の危機的な状況の中で、早急に地域の足を守る施策に取り組む必要があるため、本計画は年度内に取りまとめたい。実際に校外学習利用を小学校に働きかけたり、既存の調査データの活用に加えて、新たなアンケート調査の実施も進めているので、よろしくご理解いただきたい。
- ・ 連携計画（案）の概要について、以下のとおり報告があった。
 - ① 計画期間は平成 22 年度から 24 年度の 3 か年とする。
 - ② 構成は現況分析、課題整理、活性化の方向性（方針、目標、施策）とする。
 - ③ 「地域に親しまれ、地域とともに歩む、持続的・安定的な路線維持と活性化の実現」の理念の下、1) 他交通機関に対する競争力向上、2) 駅勢圏の拡大、3) 定期利用者と域外からの流入の拡大、4) 公共交通利用意識の啓発、5) 安定した輸送サービスの確保、6) 沿線住民との協力、の 6 つの基本方針に基づく施策の展開を図る。
 - ④ 輸送人員の減少に歯止めをかけ、平成 24 年度には平成 20 年度並の 730 万人／年を確保することを計画目標とする。

(7) 意見交換

○ 座長より委員に意見を求めたところ、以下の意見が出された。

- ・ 厳しい状況を理解してもらうため、輸送人員の減少に加え収支状況も盛り込む方がよい。また、各施策の効果について収支分析を行い、優先順位付けも考えてもらいたい。
- ・ 定期利用者を増やすには限界もあるので、高校生の提案にあったキャラクターの活用も含め、神戸の都市住民に小野・三木方面へ来てもらうよう、積極的に観光誘致や地域活性化を図る表現を入れるべきではないか。
- ・ 方針3では「地域間の交流人口を増やす」という切り口の方がよい。
- ・ 方針5の「鉄道施設の効果的な更新」の実施主体は協議会になるのか。（事務局より、実際に施設更新を行うのは神戸電鉄であるが、沿線各市・県・国は補助金による支援を行うということであるとの説明があった）
- ・ 方針5で「安全で安心な輸送サービス」という主旨を入れられないか。
- ・ 学校の授業などで利用してもらう際には、乗車券の購入など分かりにくいことも多いので、学校に出向いてご利用の案内をするべきではないか。
- ・ 目的地の到着時刻がわかる時刻表や、高齢者の利用促進が図られる乗車券も検討してもらいたい。

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 小野高校生から提案のあった、フレンドショップやフィーダーバスとの連携についても計画に盛り込むことを検討してもらいたい。
- ・ 自分たちが暮らす身近な場所への移動にもっと鉄道を利用してもらうなど、沿線の域内利用を増やすことも重要である。
- ・ 定期利用の増加については沿線企業への働きかけが必要であり、特に影響の大きい行政機関ではエコ通勤を推進して、社会的な意義を示していただきたい。
- ・ 子どもの鉄道利用体験を増やすという点からも、神戸市交通局が実施しているエコファミリー制度のような取り組みも検討してもらいたい。
- ・ 公共交通利用意識の向上については、啓発だけではなく実際に行動を転換してもらえるような取り組みが必要である。
- ・ 以上のご意見も踏まえたうえで、本計画案をパブリック・コメントにかけるとともに、今後、本協議会で内容の検討を進めていくこととする。

閉 会

(第3回協議会 2月17日開催予定)

以上

第2回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
末永 清冬	神戸市企画調整局 参事	
西山 誠	三木市 技監	
小林 清豪	小野市 副市長	
三津澤 修	神戸電鉄株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長	
中垣 千秋	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	欠席
蓬莱 道龍	三木地区区長協議会会長	
安福 恵子	自由が丘地区区長協議会会長	
田中 歳彦	小野市連合区長会会長	
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	神戸国際大学経済学部 都市環境・観光学科教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
浪越 祐介	国土交通省 近畿運輸局企画観光部 交通企画課長	
宮原 三千信	国土交通省 近畿運輸局鉄道部 計画課 専門官	代理出席
松下 浩二	国土交通省 近畿運輸局鉄道部 計画課 専門官	代理出席
松田 智	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課 主幹	代理出席
矢野 実	兵庫県 神戸県民局 総務室 交流・連携参事	
森田 克彦	兵庫県 北播磨県民局 総務室 主幹兼地域企画課長	代理出席
山本 琢也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり推進課長	